

*Physcia picta* (Sw.) NYL. ト *Physcia aegialita*  
(Ach.) NYL. トノ區別

佐々木 一郎

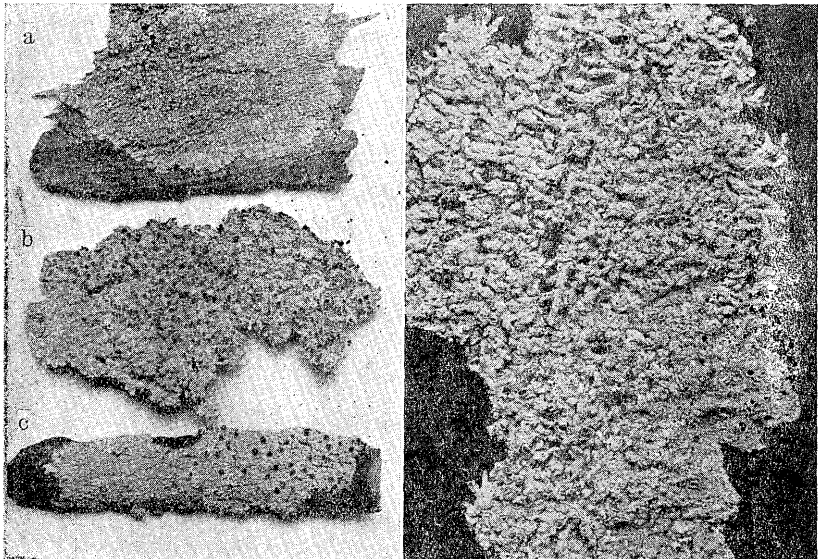
I. SASAKI: Distinction between *Physcia picta* and *Physcia aegialita*.

表題ノ 2 種ノ地衣ハ子囊下層ガ暗褐色ヲ呈シテ居ル爲ニ「ゲリナリア節 (sect. Dirinaria) = 入レラレ「パルメリア型ノ子器ヲ有スル眞正むかでごけ節 (sect. Euphyscia) ト區別シテアル。元來熱帶又ハ亞熱帶ノ産デ本邦デモ暖地ニノミ見出サレル。兩者ハ其形態ガ互ニ酷似シテ居リ其葉體ハ基物(岩石又ハ樹皮)ニ密着シ鱗片ハ *picta* ノ方ハ幅 1-2 mm, *aegialita* デハ殊ニ周邊デハモ少シ廣イ。互ニ重リ合ヒ又ハ密接シテ連續シタ葉體ヲナシ周邊ニ於テノミ稍ニ隔離シテ居ル。表面灰綠色又ハ類白色デ各鱗片ノ表面ニ縱皺ガ目立ツテアル。裏面ハ暗褐色又ハ殆ド黑色デ短イ暗色ノ擬根毛ガ生ヘテ居ル。從來兩者ヲ分ツ特徴トシテ用ラレタモノハ粉芽ノ有無デ *picta* ニハ圓形ノ粉芽ガアリ *aegialita* ニハ全ク粉芽ハ出ナイコトニナツテ居ル。從テ *picta* ノ幼生デ未ダ粉芽ヲ生ジナイモノハ *aegialita* ト間違ラレルト WAINIO (Lich. Brés. I, p. 150) ハ記シテ居ルガ然ラバ其時ハ何デ區別スルカト云フ點ハ明ニシテ居ナイ。又孢子ノ大サノ記載ヲ見ルト *picta* ハ 11-20×5-7 $\mu$  デアリ *aegialita* ハ 16-22×5-8 $\mu$  (20-25×9-11 $\mu$  ト云フ記載モアル) デ *aegialita* ノ方ガ大キイコトニナツテ居ルガ共通ノ範圍ニ含マレル部分モ少クナクアマリ決定的デハナイ。其他ニ尙一ツノ困マツタコトハ ZAHLBRUCKNER (Bot. Mag. Tokyo, XLI, p. 362 [1927]) ガ朝比奈博士ノ伊豆採集品 No. 172 ヲ鑑定シタ際其標本ニハ明ニ多數ノ粉芽ガアルニモ不拘之ヲ *Physcia aegiliata* (Ach.) NYL. var. *murina* ZAHLBR.<sup>1)</sup> ト云フ新變種ニシテシマツタ。ソシテ其記載ニモ明ニ *sorediosus*, *sorediis sat densis* ト書イテアル、但シ孢子ハ 10-12×6-7 $\mu$  トナツテ居リ寧ロ *picta* ノ方ニ一致シテ居ル。サレバトテ彼ノ記載丈デハ *picta* ニモ *aegialita* ニモ解釋ガ出來何ヲ標準ニシテヨイヤラ當惑シテシマツタノデアアル。

最近著者ハ南洋産地衣ノ檢定ヲ行ヒツ、アル際此兩者ヲハツキリ區別スル

1) ZAHLBRUCKNER ノ文獻ニハ盡ク *aegiliata* トナツテ居ルガ ACHARIUS デモ WAINIO デモ HUE デモ MALME デモ皆 *aegialita* トナツテ居ルノデ著者ハ後者ニ從テ *aegialita* ヲ採用スル。

必要ニ迫ラレ朝比奈博士所藏ノ標本ヲ微量浸出法デ検査シタ所極メテ明確ニ  
2 群ニ分レタ。即一方ノ種類カラハ「アトラノリン、デヴリカート酸及ビ「ゼ  
オリン」ガ出タ、尤モ標本ニヨツテハ「ゼオリン」ヲ見出シ得ナカツタモノモア  
ツタ。之ニ反シ他ノ群カラハ「アトラノリン、石花酸ト「ラマリノール酸ガ出  
タ。但シ此ラマリノール酸ハ結晶ヲ作ツテ見タノデハナク地衣體ノ酒精浸



左 *Physcia picta* (Sw.) NYL.  
a. 伊豆三島産 b. ジャワ産 No. 3105 c. ブラジル産 No. 2019  
右 *Physcia aegialita* (Ach.) NYL.  
臺灣タロコ産 (leg. M. OGATA).

出液 = 「アルカリ」ヲ加ヘテ紅色ヲ呈スルコトデ決定シタ。コレハ *Ramalina geniculata*<sup>1)</sup> ヤ *Ramalina intermediella*<sup>2)</sup> ノ場合ニ先例ガアルノデ石花酸ヲ發見シタ場合ラマリノール酸ノ形ヲ見ナイデモ酒精溶液或ハ髓層ガ「アルカリ」デ紅色ヲ呈スレバ「ラマリノール酸ノ存在ヲ決定シ得ルノdeal。

以上ノ第一群即「アトラノリン、デヴリカート酸及ビ「ゼオリン」ヲ含ム方ノ標本ノ多數ハ表面ニ半球形ノ粉芽ヲ叢生シテ居ルカラコレハ *picta* デアル、然シ時ニ全ク粉芽ノナイ標本モ此種ニ屬スル (WAINIO ノ所謂幼生品)。

1) 本誌 XIV, p. 727 (1938).

2) 本誌 XV, p. 211 (1939).

第二群即チ「アトラノリン、石花酸及ビ「ラマリノール酸ヲ含ムモノハ表面ニ粉芽ノ無キモノ多ク先人ノ *aegialita* = 入レタモノガ之ニ屬スル。然シ多少ノ粉芽ガアル標本デモ此成分ノモノガアル又此類ハ髓層ヲ露出シテ「アルカリ溶液ヲ注グト紅色ヲ呈スル又葉體ガ *picta* ヨリ厚手デ周邊ノ瓣片モ幅ガ廣イ。

此ノ「ミクロ化學ノ結果ハ決定的デ粉芽ノ有無丈ケニ倚ルコトハ不確實デアルコトガ明トナツタ。ソコデ問題ノ兩種ノ Diagnosis ヲ補正スレバ次ノ通りトナル。

**Physcia picta** (Sw.) NYL. emend. SASAKI

Syn. *Physcia aegiliata* (Ach.) NYL. var. *murina* ZAHLBR. in Bot. Mag. Tokyo, XLI, p. 362 (1927).

Thallus tenuior, vulgo solediosus (raro esorediosus), laciniis angustioribus, atranorinum, acidum divaricatum et interdum zeorinum continens.

React. Th. K+ flavens, med. K± (non erythrina).

**Physcia aegialita** (Ach.) NYL. emend. SASAKI

Thallus crassior, vulgo esorediosus (raro solediosus), laciniis latioribus, atranorinum, acidum sekicaicum et acidum ramalinolicum continens.

React. Th. K+ flavens, med. K+ rubescens.

検査標本ノ記録

成分検査ノ際標本ノ一片ヲ浸出シ「スライドガラス上ニ乾燥スル時デヴリカート酸含有ノ浸出物ハ乾燥物質ノ邊緣ニ結晶(デヴリカート酸)ヲ析出スルモ石花酸含有ノモノハ浸出物ヲ乾燥スルト「ワニス状ヲ呈スルニヨリ検査前ニ大體區別スルコトガ出來ル。尙此乾燥殘留物ヲ硝子板上デ加熱熔融シタル後漂白粉ト酒精ノ一滴ヲ加ヘルト藍色ニナル。

I. アトラノリン、デヴリカート酸時ニ「ゼオリン」ヲ含ムモノ

*Physcia picta* (Sw.) NYL.

採集地 臺灣・臺北・草山 採集年月日 14-XII-1942 採集者 緒方正資 (30)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セス

本品ハ粉芽ヲ有シ樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

*Physcia picta* (Sw.) NYL.

採集地 琉球・首里 採集年月日 28-V-1923 採集者 緒方正資 (7)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セス

本品ハ粉芽ヲ有スルモノト針芽ヲ有スルモノト 2 品混合セルモノ兩品共上

記成分ヲ含有ス共ニ樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

*Physcia picta* Nyl.

採集地 <sup>クニカミ</sup> 沖縄縣國頭郡名護町字東江 <sup>アガリエ</sup> 採集年月日 5-X-1938

採集者 金城鐵郎 (112)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ検出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ樹皮ニ着生ス (東大理學部植物學教室標本)

*Physcia picta* Nyl.

採集地 鹿兒島市内 採集年月日 15-VI-1931 採集者 TANIGUCHI (6)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ検出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ枯レタルほときの樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

*Physcia picta* Nyl.

採集地 九州・肥後人吉 採集年月日 7-I-1927 採集者 前原勘次郎 (27)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ検出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ石垣ニ着生ス (朝比奈博士標本)

Sub *Physcia integrata* Nyl. var. *sorediosa* Wain. こむかでごけ pr. p.

採集地 鳥取縣西伯郡車尾村 採集年月日 Nov. 8, 1913 採集者 横尾 (28)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ検出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ樹皮ニ着生ス (東大理學部植物學教室標本)

成分及ビ形態ヨリ *Physcia picta* (Sw.) Nyl. ニ入レルベキモノデアル

*Physcia picta* Nyl.

採集地 京都・貴船 採集年月日 2/Sep./1927 採集者 橋本亮 (8)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸、ゼオリン

本品ハ粉芽ヲ有シ樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

*Physcia picta* Nyl.

採集地 阿波國名東郡上八萬村 採集年月日 昭和 15 年 7 月 27 日

採集者 伊延敏行 (126)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ検出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ樹皮ニ着生ス (東大理學部植物學教室標本)

*Physcia picta* Nyl.

採集地 紀州・高野山 採集年月日 20-XI-1926 採集者 沼尻好 (613)

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ検出セズ

本品ハ松ノ樹皮ニ着生シ粉芽ハ特大キク直徑1mm以上ノ大サノモノアリ  
(朝比奈博士標本)

*Physcia picta* NYL.

採集地 伊豆・三島 採集年月日 26-VII-1929 採集者 Y. ASAHINA (206)

成分 アトラノリン、ヂヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ枯レタル樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

*Physcia picta* NYL.

採集地 伊豆・伊東海岸 採集年月日 8-VII-1924 採集者 Y. ASAHINA (172)

成分 アトラノリン、ヂヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ蜜柑ノ樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

本品ヲ ZAHLBRUCKNER ガ *Physcia aegiliata* (ACH.) NYL. var. *murina* A. ZAHLBRUCKNER (Bot. Mag. Tokyo, XLI, p. 362 (1927)) ト鑑定シタモノデアルガ成分ニヨリ *Physcia picta* (Sw.) NYL. ニ入レルベキモノデアル

*Physcia picta* NYL.

採集地 東京市外江古田 採集年月日 Dec. 1925 採集者 久内清孝 (177)

成分 アトラノリン、ヂヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽特ニ多シ杉ノ樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

*Physcia picta* NYL.

採集地 千葉縣九十九里濱木戸海岸 採集年月日 20-III-1941

採集者 佐々木一郎 (546)

成分 アトラノリン、ヂヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽ヲ有シ杉ノ樹皮ニ着生ス (佐々木標本)

外國標本

V. SCHIFFNER Iter Indicium 1893/94 No. 3105

Sub *Physcia aegiliata* (ACH.) det. AL. ZAHLBRUCKNER

Java: Prov. Batavia. Ad Arborum truncos in horto botanico Buitenzorgensi.

23. 11. 1893

Regio calida, alt. ±250 m s.m.

成分 アトラノリン、ヂヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽ナク樹皮ニ着生ス (朝比奈博士標本)

本品ハ粉芽ヲ有シナイガ成分ニヨリ *Physcia picta* (Sw.) NYL. ニ入レルベキデアル

V. SCHIFFNER Iter Indicium 1893/94 No. 3227

*Physcia picta* (Sw.) det. AL. ZAHLBRUCKNER

Java: Prov. Batavia. In horto dicto „Cultuurtuin“ ad Tjikeumeuh prope  
Buitenzorg.

18. XII. 1893 Regio calida, alt. ±250 m s.m.

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽アリ樹皮=着生ス (朝比奈博士標本)

Herb. Brasil. Regnell. Musei Bot. Stockholm

Exped 1<sup>mae</sup> Regnellian Lichenes N:O 2019

Sub *Physcia aegialita* (Ach.) NYL.

Brasiliae civit Grosso: Cuzaba

23, XI, 1893 leg. G. A. MALME

成分 アトラノリン、デヴリカート酸(ゼオリン)ハ檢出セズ

本品ハ粉芽ヲ有セズ 樹皮=着生ス (朝比奈博士標本)

成分=ヨリ *Physcia picta* (Sw.) NYL. =入レルベキデアル

## II. アトラノリン、石花酸、ラマリノール酸ヲ含ムモノ

*Physcia aegialita* NYL.

採集地 臺灣・埔里 採集年月日 31-XII-1925 採集者 Y. ASAHINA (F. 95b)

成分 アトラノリン、石花酸、ラマリノール酸(ラマリノール酸ハ「ア  
ルコール浸出液=KOHヲ加ヘ紅紫色)

本品ハ粉芽ヲ有シ岩石=着生ス 髓層 KOH+紅紫色 (朝比奈博士標本)

*Physcia aegialita* NYL.

採集地 Rengechi Formosa 採集年月日 31-XII-1925

採集者 Y. ASAHINA (F. 96)

成分 アトラノリン、石花酸、ラマリノール酸(ラマリノール酸ハ  
「アルコール浸出液=KOHヲ加ヘテ紅紫色)

本品ハ粉芽ヲ有セズ樹皮=着生ス 髓層 KOH+紅紫色(朝比奈博士標本)

*Physcia aegialita* NYL.

採集地 Toroyen, Mt. Arisan Formosa 採集年月日 23-XII-1925

採集者 Y. ASAHINA (F. 102)

成分 アトラノリン、石花酸、ラマリノール酸(ラマリノール酸ハ

「アルコール浸出液 = KOH ヲ加ヘテ紅紫色)

本品ハ地衣體特ニ黃白色ヲ呈シ粉芽ナシ樹皮ニ着生ス

髓層 KOH + 紅紫色

(朝比奈博士標本)

*Physcia aegialita* NYL.

採集地 臺灣・タロコ 採集年月日 July-14-1935

採集者 M. OGATA (F. 35714)

成分 アトラノリン、石花酸、ラマリノール酸 (ラマリノール酸ハ

「アルコール浸出液 = KOH ヲ加ヘテ紅紫色)

本品ハ上記ノ標本中辨片少シク長ク幅モ廣シ蘚苔類ニ着生ス

髓層 KOH + 紅紫色

(朝比奈博士標本)

Sub *Physcia picta* (Sw.) NYL.

採集地 紀州・田邊町 採集年月日 12-IV-1925 採集者 宇井縫藏 (760)

成分 アトラノリン、石花酸 (ラマリノール酸ハ檢出セズ)

本品ハ粉芽ヲ有シ樹皮ニ着生ス

(朝比奈博士標本)

成分ニヨリ本品ハ *Physcia aegialita* (ACH.) NYL. ニ入レルベキデア

### 外國標本

V. SCHIFFNER, *Iter Indicum* 1893/94

No. 3220

Sub *Physcia picta* NYL. det. AL. ZAHLBRUCKNER

Java: Prov. Batavia. Ad Arborum truncos in horto botanico Buitenzorgensi.

18. 12. 1893

Regio calida, alt. ±260 m s.m.

成分 アトラノリン、石花酸、ラマリノール酸 (ラマリノール酸ハ

「アルコール浸出液 = KOH ヲ加ヘテ紅紫色)

本品ハ針芽ヨリ移リ變ハレル粉芽ヲ有ス。樹皮ニ着生ス。

髓層 KOH + 紅紫色

(朝比奈博士標本)

成分ニヨリ本品ハ *Physcia aegialita* (ACH.) NYL. ニ入レルベキデア

ル

以上檢査セル標本ヨリ判明セル分布状態ハ本邦デハ *Physcia picta* (Sw.) NYL. ハ臺灣ヨリ關東中部迄、*Physcia aegialita* (ACH.) NYL. ハ臺灣ヨリ紀州以南ニ産ス。

但シ此分布ハ後日調査ノ結果多少ノ變更ヲ見ルナラン。